

第7回下川町総合計画審議会(福祉・教育部会)会議録

と き 平成30年10月23日(火)

18:30~21:00

ところ 総合福祉センター「ハピネス」

出席者(委員):丸井委員、瀬川委員、筒渕委員、加藤委員、遠藤委員、伊藤委員

出席者(町):町立病院 三条事務長、伊東主幹、森主査

▽施策項目「医療」

・事業名「医療機器整備等事業」

・事業名「病院施設改修事業」

町:施策内容説明

委員:エアコンは、病室ではなく病棟廊下に設置するのか。

町:他病院など見学させていただいた。直接部屋に設置することで入院患者の体調に悪影響があるかもしれない、間接的に廊下に設置した方が良いのではないかと考えた。

委員:廊下からの涼しい空気が部屋に入るようにということか。

町:そういうことだが、廊下からでは想像より涼しくないかも、という意見もあり、現在検討中。

委員:施設の構造等でも違いがあるだろうから、建物の専門的な人に見てもらうのも大事だと思う。

町:検討する。

委員:病棟ナースコールに一千万円、素人ながら高いと感じる。別の方法で安くならないのか。議会のインターネット中継も、当初は一千万円かかるとの話だったが、改めて調べてみると、スマホを利用することで格段に値段が下がることが分かった。病院改修時に整備するのではなく、なぜ今なのか。エアコンも改修時に併せてできなかったのか。

また、サービス向上ということでハード面の整備は分かるが、ソフト面で何もないのか。

町:医療機器の整備等をハード面とするなら、ソフト面は患者との触れ合いや話し合い

だと思う。それらは0予算なので施策の事業には上げていないが、今後の展開として、先日の町民説明会等でいただいた意見も、院内で確認し合って改善していく。

委員：そういう流れがあるなら0予算でも目標指標に入れてはどうか。

町：それを「目標値」として数字化するのは難しい。

委員：病院スタッフの数は足りているのか。

町：数年内に退職者が出ることを考えると現状でギリギリの数。看護師、看護補助ともに募集している。

委員：例えば、町から補助を出して看護学校等に進学し、卒業したら町に戻ってきてもらうような仕組みはできないか。

町：「紐付き」にすると若い人に避けられる傾向。どこかで働きたい人を対象に「下川に来てくれたらこういう支援がある」というような話ができないか、保健福祉課主体で検討中。それとは別に、准看護師として現在働いている職員が正看護師になるための支援もしている。

委員：「地域住民の医療ニーズを的確に把握」とあるが、具体的に何かあるか。

町：病院入口に「ご意見箱」を設置し、まずはそこで患者からの不満や要望等入れている。また、先日の町民説明会内でもご意見を頂いたり、今後、保健福祉課と連携して各種イベント・会議などでご意見を伺ったりできないか検討している。

委員：ご意見箱は病院に行った人だけにしか分からないので、病院に行っていない人の声も大事だと思う。町民説明会よりも、もっと気楽に参加できる場で。そもそも、私は何度か病院に行っているがご意見箱に気が付かなかった。もう少し目立たせるか、広報に定期的に載せる等してほしい。

委員：今までにどんな意見が入っていたのか。

町：一例として、付き添いの方が患者さんに飲み物を飲ませやすくなるので、自動販売機にストローを付けてほしいというご意見があり、自動販売機の業者に相談して付けてもらった。また、リハビリ室が遠いというご意見もあったが、建物の構造上あの場所になってしまうという事と、入院患者もあのリハビリ室を利用するため、その利便性も含めてご理解とご協力の程お願いしている。

委員：その意見の回答は公表しているのか。

町：病院内に掲示している。

委員：そのやり取りを広報に掲載しても良いのではないか。

委員：そうやって集まったニーズを指標に使えないか。

委員：数字にするのは難しい部分だと思う。

町：それで患者数が増えれば、その部分だけを指標にできるかもしれない。

出席者（委員）：丸井委員、瀬川委員、筒淵委員、加藤委員、遠藤委員、伊藤委員

出席者（町）：保健福祉課 栗原課長、杉之下主幹、寺西主幹、齋藤主幹、古屋主幹、白石主査、蓑島主査、大原主査

▽施策項目「社会保障」

・事業名「国民健康保険事業」

委員：指標①と②の住民1人あたりの医療費の意味を教えてください。町の人口で割るのか。

町：①は国民健康保険加入者②は75歳以上の後期高齢者が、かかった年間の医療費総額をそれぞれの加入者数で割った金額となる。

委員：国民健康保険以外は含まれていないのか。

町：社会保険や共済保険加入者等は含まれていない。

委員：国民健康保険の加入者の割合はどのくらいか。

町：3月末で935人だが、月により変動はある。

委員：国民健康保険以外の医療費を町が負担することはないのか。

町：ない。介護保険、後期高齢者制度に対する納付金については、どの保険制度も同じ仕組みだが、保険税からも負担している。

・事業名「後期高齢者医療事業」

委員：指標②の平成42年度の目標値が大きく下がるが、何か理由や施策があるか。

町：母数が変わることと、健康寿命を延ばしながら、病気の早期発見、早期治療に努めていきたい。

▽施策項目「保健・健康づくり」

・事業名「定期予防接種事業」

委員：展開方針で、予防接種を安全に接種しやすい体制を整えていただくのも大事なことだと思うが、予防接種にはメリット、デメリットがあり確率的に必ず副作用もあるので、「有効性の理解」という文言ではなく「様々なメリット、デメリットの理解を促し」のほうが適切ではないか。

町：行政としては、予防接種の有効性を促し、みんなに接種していただくことを促進していかなければならない。様々な不安もあると思うが、副作用等については保護者に説明し、接種していただいているのが現状なので、これで推し進めたい。ご理解をお願いしたい。

・事業名「20歳からの生活習慣病予防事業」「歯科保健事業」「母子保健事業」 「がん検診事業」

委員：現状と課題で、若い年代の生活習慣病が多く、その原因が食生活にあるということだが、食生活に対する事業を教えてほしい。

町：事業は「20歳からの生活習慣病予防事業」「歯科保健事業」「母子保健事業」の中で行っており、妊娠期から高齢者まで、訪問や相談の場面で話をしている。今、力を入れているのが「母子保健事業」で、毎回栄養士に面談しているのと、「20歳からの生活習慣病訪問事業」で健診を受けた後の健診データから体の状態にあわせた食生活の話をしている。

委員：指標②の胃がん・肺がん等検診の対象者は全町民か。

町：指標①のメタボリックシンドロームは国保特定健診対象者、②の対象者数は全町民で、受診者数は、町の健診を利用して受けた方の受診率が基準値となっている。

委員：対象者数が全町民か。

町：胃・肺・大腸・乳がん検診は40歳以上、子宮がん検診は20歳以上の女性

委員：指標③は全町民対象か。

町：母子保健事業で、妊娠期から3歳児健診までの対象者を全数確実に把握しているかを目標としている。

委員：課題の食生活の問題について、妊娠期から高齢者まで長い期間みていただいていることは町民にとっても心強いことだと思うので、目標達成がわかるようなかたが

何かあればよいと思う。

委員：20歳からの生活習慣病予防事業は全町民か。

町：この事業の中には、20歳から30歳のハピネス健診と後期高齢者健診があり、国保の特定健診は入っていないが、健診の事後の部分は含めている。肝炎ウイルス健診も入っている。

▽施策項目「子ども・子育て支援」

・事業名「幼児センター運営事業」「特別保育事業」「子育て支援センター事業」

委員：展開方針の地域間交流、世代間交流とあるが、どのようなことか。

町：地域間交流は、よっくるに滞在している方のお子さんを滞在型の保育で受け入れしている。世代間交流は福祉運動会や小学校との交流等の事業を行っている。

委員：きらきら、ぴよぴよでは、交流はしないのか。

町：町外からも来ていることもあり、交流している。

委員：田植え体験などが地域間交流ではないか。町内の地域の物事に触れるということではないか。

委員：地域内ではなく、他の地域との交流ととらえた。

町：町内の公園、図書館等に出かけることも含んでいる。

委員：世代間交流で、福祉運動会の存続について話がでていますが、幼児センターの運動会とコラボしてできたら交流になるし、福祉運動会も存続しやすいのではないかと検討いただければと思う。

委員：展開方針の食育の目的、取り組みについて教えてほしい。

町：田植えや稲刈りをし、お米がどうやってできるのかを学んだり、センター内の畑で収穫を手伝うなど食の大切さを教えている。

町：ピザ作り、芋だんご作り、もちつきも行っている。

委員：体験が食育の目的にどうつながるのか。

町：食べることの楽しさ、大切さを感じることができる子どもを育てることを食育の目標としている。

委員：健康づくり、健康維持にもつなげていただければ、より有意義な事業になると思う。

委員：展開方針で、ニーズに応じたサービスの提供とあるが、どのようなニーズを把握し、どの事業につながっているか聞かせてほしい。

町：平成32年度から始まる子ども・子育て支援計画策定にあたり、今年度、ニーズを把握するためアンケート調査を行う。その中で、保育やファミリーサポートセンターなど町民が主体となった子育て支援のしくみづくりにどのような支援ができるか、一時保育の拡充等SDGs女子会のアンケート調査のニーズも把握し、サービスの充実を図るためどのような事業が展開できるか検討していきたい。

委員：指標の満足度を達成するために、継続事業の中でどのように目標値に近づけるのか。

町：特別保育事業の中に、延長保育、一時保育、障害児保育があり、今、一番ニーズがあるのが一時保育の拡充ではないかと思う。アンケートの調査結果によって、新規事業や拡充を検討していきたい。

委員：一時預かりは急でも対応してもらえるのか。

町：緊急で必要性がある場合に限るが、予約制になっている。

町：基本は予約だが、当日の朝や急な場合も受け入れしている。体制が整っていれば、できるだけ受け入れしている。

委員：一時預かり保育と延長保育は違うのか。

町：一時預かり保育は、センターに入所していない方を対象としている。延長保育はセンターに通っている方が正規の時間を超えて預かってほしいという場合に預かる制度になる。

委員：延長保育には理由付けが必要か。

町：特にない。一時預かり保育、延長保育は費用が発生するため、事前に申し込みを制度上とっているが、弾力的に預かっているのが実情である。

委員：一時預かり保育は急に預かるのは難しいかもしれないが、延長保育であれば急にお願ひしても可能だと思うが、お昼までの子が午後からの延長保育を断られたと聞いたことがある。何か規定があるのか。

町：延長保育は預かっている方を対象にするので、希望のある場合について標準の方であれば、午後6時半から7時まで預かる。

町：短時間保育の延長もニーズがあるかもしれないが、規則では延長保育は午後6時半から7時までとなっている。

町：保育時間は、短時間保育は1時半まで、長時間保育は6時半までとなっている。

委員：短時間保育の子どもを、夕方まで預ける場合は延長保育になるのか。

委員：今は、短時間保育の子どもを夕方まで預かることはないのか。

町　：今は、一時預かりを運用して対応している。

委員：何時まで預かってもらえるか情報が錯そうしている。

委員：幼児センターを利用する方の中には、地方から来られる方も多し、子育てに初めて関わる施設で、みんなが当たり前と思うことでも、わかりにくいこともあると思う。受ける人によってサービスの違いが感じられる場面もあるので、今どのようなサービスがあって、どのようなサービスを受けられるのかわかりやすくすることが必要だと思うのでよろしくお願ひしたい。

委員：ニーズの把握にアンケートは有効だと思う。個人的に、直接、先生にお話しをすることもあるので、書くような機会があればありがたい。